

置賜自給圏通信 Vol.2

一般社団法人 置賜自給圏推進機構は置賜、山形、そして日本の新しいコミュニティを創造します。
今年はその大いなる飛躍の年! 皆さんと共に「新しい置賜」を創りましょう!



代表理事 新年のご挨拶



高橋幸司

(山形大学工学部教授)

渡部 務

(高畠有機農業提携センター)

去年は準備の年で、上手に離陸することが出来たのではないかと考えております。今年具体的な活動により成果を上げるべき年だと考えています。異なる立場での価値観を理解し合いながら、小さな成功事例を積み上げ、大きな目的に向かって少しずつ前進して行きましょう。皆さんの柔軟な発想とネットワークの良い行動力と高いモチベーションが創造に結びつきます。新しい豊かな地域を作り上げましょう。

会員の皆様方におかれましては幸多い新年を迎えることと、心よりお慶び申し上げます。昨年(2014年)4月の発足以来8ヶ月が過ぎ、各部会に於ける議論も少しずつ深まっております。各行政、所属団体の取り組みに加え、会員皆様の高い見識と実績には多に刺激を受けました。今年実績を示すことが求められる1年になると思います。微力ではありますが、地域の自立を目指した1歩を進められる様に頑張ります。皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

置賜自給圏推進機構のホームページが新しくなりました! New

置賜自給圏のホームページが新しく生まれ変わりました。「活動報告」では各部会の概要やイベント、講演会、会議などの報告も随時行っています。その他に「理事ブログ」や新聞、雑誌などでとりあげられた記事などもご覧頂け、各種書類のダウンロードもできます。各部会の日時、開催場所は「インフォメーション」でお知らせをしていますので、常にチェックしてみてください。皆さんからの投稿も募集しています。ホームページは「置賜自給圏」で検索できます。

www.okitama-jikyuken.com/



部会の開催について

部会会議は、原則月1回開催。開催場所は自給圏の事務所あるいは部会で決めます。【基本】■「再生可能エネルギー」「森林等、再生可能資源の利用活用研究」毎月第2月曜日 ■「圏内流通(地産地消)」毎月第2火曜日。■「地域資源循環農業」毎月第2水曜日。■「教育・人材育成」毎月第3木曜日。■「土と農に親しむ(身土不二の農舞台)」毎月第3月曜日。■「食と健康」は毎月第3火曜日。■「構想推進」は毎月第3水曜日。

- * 1) 部会の開催日時、場所は毎月ホームページでご案内します。
- * 2) 部会参加ご希望の方は事前に事務局までご連絡ください。



副代表・専務・常務理事から 新年のごあいさつ



後藤博信 (東北おひさま発電株式会社 代表取締役)

今年も私の目指すものは「エネルギーの地産地消」です。地域で自立するためには食とエネルギーの地産地消が欠かせません。原発再稼働を阻止するためにも声をあげ、行動に移していくことが重要です。そのモデルをこの置賜で共に創って参りましょう。



松本政裕 (生活協同組合共立社 理事長)

一般社団法人として歩みを始めた初年度が終わり、新しい年を迎えます。部会を通じての活動はできませんが、地域経済の好循環を目指し、具体的な活動が進むような関わりを考えます。よろしくお願ひ致します。



井上 肇 (NPO法人 結いのき 専務理事)

若い経営者や農業者に意欲的な人たちが生まれている。佐野洋平氏はその代表格だ。懐かしい「雪割り納豆」を復活させ、麹菌納豆を新時代に合った健康食として紹介。彼の研究熱心さを各首長には見習ってほしい。



佐藤由美子 (生活クラブやまがた生活協同組合 理事)

12月からの大雪で大変な毎日です。でも、雪があるから水に恵まれ、土も豊かで、春には新しい芽吹きが輝く、この置賜に生まれ育って暮らしている事を誇らしく思います。多くの方々との地域のすばらしさを共有できる一年にしたいと思います。



塚田弘一 (長井商工会議所 専務理事)

「土と農に親しむ(身土不二の農舞台)部会」を担当させていただいています。壮大な構想ではありますが、地道で愚直な取り組みを継続することが構想実現の歩みになると考えています。大きな輪になる展開を進めたいものです。



横山太吉 (レインボープラン推進協議会 相談役)

会員相互の情報共有が肝心。各専門部会が行う事業の進捗状況、成果、会員の声などを事務局と連携し広報活動に当たる。このため各市町村や一般企業等からの広報経験者の参加を求めます。また、当機構の認知度を高めるためのキャラクター制作などにも取り組みます。



高橋 尚 (生活クラブやまがた生活協同組合 代表理事)

あけましておめでとうございます。新しい年が始まりました。今年も皆様が健やかに過ごせる一年となるよう、心よりお祈りいたします。置賜自給圏づくりを共に進めてまいりましょう。



後藤幸平 (飯豊町町長)

「自給圏構想」はメーテルリンクの『青い鳥』を思い出させます。チルチルとミチルが探す幸福の青い鳥は、一番身近なところにおりました。現代の便利な暮らしを地域にあるもので再構築しませんか。そこが魅力ある未来社会の入口です。



舟山康江 (農水省OB、前参議員議員)

昨年動き出した置賜自給圏構想。今年はいよいよ具体的行動を起こす時です。地域資源の重要性と価値を再認識し、付加価値を生み出すために、一人一人に呼びかけ運動を広げていきましょう。これぞ真の「地方創生」!



江口忠博 (漆工芸家)

会員の皆さまの高い志に敬意を表します。「ずーっと置賜で暮らし続けたい」という皆さんの願いに対して、微力ではありますが、新年も地域が自立する姿を共に描きながら「命と暮らしを繋ぎ続ける」置賜づくりを目指してまいります。



菅野芳秀 (農業)

数人が集まり、自給圏構想の骨子を話し合ったのは昨年(2014年)の1月でした。わずか1年。それだけに期待の大きさを感じます。山形・置賜から新しい日本を創造する!こんな気概と覚悟をもって新年にのぞみます。



菊地富夫 (NPO法人白鷹町地域再生ネット 理事)

経済至上主義が正義とされ、福島から何も学ばないこの国の中で、村で生きることの意義を考えた1年でした。「自給圏」は実は「自給権」であり、村が村であり続け、村で生きる権利のような気がします。今年もよろしくお願ひします。



村岡謙二 (おきたま自然農業研究会)

政治・経済の大きな流れに翻弄されながらも、山間部の農家として暮らしている故に、薪・柴を焚いて生活していた子供の頃の記憶が、妙に安心感を与えてくれます。置賜自給圏の呼びかけは、私に希望を与えて下さいました。



秋津ミチ子 (高島共生塾)

夢ふくらむスタート。現実は一歩ずつ進むしかない。鳥のように天翔けられたらどんなにいいか。焦らずゆっくりとばかりもいかず。自給圏に託した夢をみなさんと知恵と力を合わせて実現したいです。仲間は宝です!



昨年を振り返って 「置賜自給圏構想の歩み」(2014年)

- 3月15日(土) 置賜自給圏構想打ち合わせ準備会 (飯豊町「エルベ」)
- 3月31日(月) 置賜自給圏構想を考える会 設立準備幹事会 (長井市文化会館 2F)
「設立総会までに決めるべき主な項目と内容について」
- 4月 4日(金) 置賜自給圏構想を考える会 設立準備幹事会 (長井市文化会館 2F)
- 4月12日(土) 「置賜自給圏構想を考える会」設立総会 (米沢市 伝国の杜 ホール 約300名の参加)
- 5月15日(木) 置賜自給圏構想を考える会 設立準備委員会 呼びかけ人及び幹事会 合同会議 (南陽市 赤湯温泉 いきかえりの宿「瀧波」)
- 5月29日(木) 置賜自給圏幹事会 (長井市文化会館 2F)「総会、事業計画、法人設立など」
- 6月20日(金) 毎日新聞(山形版)「置賜自給圏の構想」と題して8回連載が始まる
- 6月24日(火) 置賜総合支庁 訪問 進捗状況の説明
- 7月 1日(火) 事務所を米沢市大町のマツヤ書店ビルの3Fにおく
- 7月 9日(水) 設立準備委員会 幹事会 (米沢市 置賜自給圏事務所)「法人設立、定款の件など」
- 7月17日(木) 設立準備委員会 臨時幹事会 役員候補の決定など(米沢市 置賜自給圏事務所)
- 7月17日(木) 飯田哲也氏による自然エネルギー 第1回勉強会 (米沢市 置賜自給圏事務所)
- 7月22日(火) 設立準備委員会 臨時幹事会 (米沢市

- 置賜自給圏事務所)「社団法人設立、運営の件、会員獲得、活動計画、予算案、役員人事など」
- 7月31日(木) 設立準備委員会 第3回臨時幹事会 (米沢市 置賜自給圏事務所)
- 8月 2日(土) 一般社団法人 置賜自給圏推進機構 設立総会(米沢市「置賜総合文化センター 1Fホール」) 1部 設立総会 2部 記念講演 講師: 島根県 海士町長 山内道雄氏
- 8月30日(土) 「やまがた自然エネルギーネットワーク」設立記念フォーラム 江口常務理事がパネリスト 「全国伝統野菜サミット」参加
- 8月31日(日) 米沢市「オーガニックフェスタ米沢」参加
- 9月12日(金) 置賜自給圏推進機構 第1回 常務理事会 (米沢市 置賜自給圏事務所)
- 9月24日(水) 第1回再生エネ&森林資源部会開催。(米沢市 置賜自給圏事務所)
- 10月 9日(木) 置賜自給圏推進機構 第2回 常務理事会 (米沢市 置賜自給圏事務所)
- 10月24日(金) 置賜自給圏推進機構 第1回 理事会 (米沢市 置賜総合文化センター)
- 11月 1日(土) 小国町「再生エネ☆フェス!」後援、参加
- 11月 3日(日) 飯豊町「秋の収穫祭」後援、参加
- 12月11日(木) 置賜自給圏推進機構 第3回 常務理事会 (米沢市 置賜自給圏事務所)
- 12月12日(金) 4部会合同見学会(参加者16名) (小国町 モミガライト、ペレット 製造現場見学)

団体・企業 会員をご紹介します

【団体正会員】

有限会社ふる山
 佐野水産株式会社
 山形県公立大学法人(米沢栄養大学)
 生活クラブやまがた生活協同組合
 東北おひさま発電株式会社
 長井商工会議所
 長井中央青果株式会社
 株式会社タスパークホテル
 エヌ・デー・ソフトウェア株式会社
 りんごう市場朝市出店者会
 山形県酪農協同組合
 株式会社エイコウ
 株式会社米沢郷牧場
 上和田有機米生産組合
 電興株式会社

米沢市
 米沢市
 米沢市
 米沢市
 長井市
 長井市
 長井市
 長井市
 長井市
 南陽市
 南陽市
 南陽市
 高島町
 高島町
 高島町
 小国町

小国町商工会
 しらかのの会企業組合
 長谷川建設株式会社
 置賜百姓交流会
 飯豊町
 一般財団法人山形県学校給食会
 株式会社高橋徳治商店
 株式会社サイラボ

小国町
 白鷹町
 白鷹町
 白鷹町
 飯豊町
 山形市
 宮城県東松島市
 山梨県上野原市

【団体賛助会員】

有限会社 長谷部鉄筋
 小国開発株式会社
 小国ガスエネルギー株式会社
 梅津工業株式会社

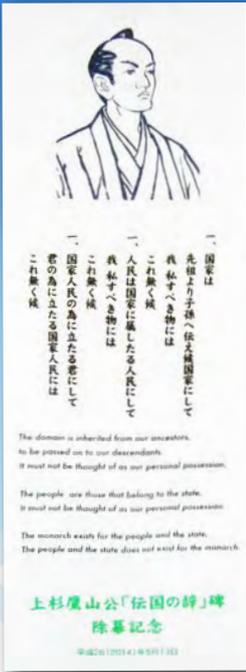
長井市
 小国町
 小国町
 白鷹町

(2014年12月25日 現在)

**新春
企画**

**先着順
限定50本**

上杉鷹山公「伝国の辞」碑 手ぬぐい をご案内いたします!



特価1本500円(税込)

皆さん、覚えていらっしゃいますでしょうか? 昨年9月27日に米沢市の「なせばなる秋まつり」にキャロライン・ケネディ駐日米大使が、伝国の杜でスピーチをしたことを。その首に掛けられていたのが、左の「白鷹山に『伝国の辞』碑をつくる会」から贈られた、手ぬぐいだったのです。この手ぬぐいを作ったのは、置賜自給圏の会員、高岡亮一さんです。今回特別に、高岡さんからこの手ぬぐいをお分け頂き、新春企画として、限定50本を会員の皆さんにご案内いたします。

ご希望の方は
同封の郵便振替用紙をご利用になるか、
郵便局に備え付けの「払込取扱票」をご利用頂き、
口座記号・番号「02220-6-137941」
加入者名「一般社団法人 置賜自給圏推進機構」
まで、〒、おところ、おなまえ、電話番号をご記入の上、
「手ぬぐい〇枚 希望」とお書き添えの上、
手ぬぐい1本500円(税込)×本数+送料100円(税込)
(お一人様4本まで)
をご送金ください。先着順にお送りいたします。
なお、数量が達しましたら、終了とさせていただきます。
(その際はご返金させていただきます)



キャロライン・ケネディ駐日大使の父であるジョン・F・ケネディ元アメリカ大統領が最も尊敬する政治家として上杉鷹山公の名前を挙げたと言われている。

映画製作にご出資頂く市民プロデューサーを募集!



長編ドキュメンタリー映画「無音の叫び声」(原村政樹監督) 農民詩人 木村迪夫(みちお)の新・牧野物語

ひとりの農民詩人の歩みと今を描くドキュメンタリー映画は、今、あの大震災も含めて東北地方それぞれの地に根ざしたくらしづくりをすすめるみなさんの「応援歌」となり、農業のあり方を人々の暮らし全般のなかで改めて見直す契機となるでしょう。こうした熱い思いを込めた映画を、その生み出す過程からたくさんの方のみなさんの支援の輪を広げるなかでつくり上げたいと願っています。(2015年春完成予定)

<http://www.eiga-muon.net/>
お問い合わせは、070-6953-3517まで

製作委員会
会長 星寛治
(置賜自給圏 顧問)

置賜自給圏の キャラクターデザイン 募集!

置賜自給圏推進機構では、置賜自給圏のキャラクターデザインを公募します。詳しくは後日の発表となります。募集期間が2015年2月15日～4月15日、審査は4月中。発表は5月に行う予定です。どんなキャラクターになるのか今から楽しみです。募集の詳細は、1月中旬ごろホームページなどで告知いたします。

新刊の ご紹介



スマート・テロワール：
農村消滅論からの大転換
(2014/12/11 発刊)
松尾雅彦：著
1800円+税 学芸出版社

元カルビー(株)の社長で、飯豊町も加入しているNPO法人「日本で最も美しい村」連合副会長で、置賜自給圏の会員でもある松尾雅彦さんの新著です。

この本の中で松尾さんは「食料自給率の低さこそ機会」であり、自給率が39%だと外国産が61%あり、日本の需要に応えられる生産の余地がまだまだ大きいことを意味すると断言しています。さらに曖昧な活用の100万haの水田を畑地に大転換すれば農村は15兆円産業を創造できるとも。

農業・農村にこそ成長余地があり、その実現を阻んでいるのは、水田を偏重する「瑞穂の国」幻想だと。

耕作放棄地や有効に活用されていない水田を「畑や放牧地」に転換し、その生産物を域内の工場で加工すれば、味はもちろん、価格も、輸入原料によるナショナルブランド商品に負けないものができる。と松尾さんは言い切り、置賜自給圏にもふれています。

「辺境からの変革」の提案の書。ぜひ、皆さんご一読を!

編集後記

あの熱い設立総会後の置賜自給圏推進機構の動きが見えないね……なにを具体的にやっていくのだろうか? 世間の目にはきっとそう映っていることなのでしょうね。置賜自給圏推進機構で掲げた部門毎の事業は極めて行政的であり、地域社会への問題解決への挑戦のようにも思えます。しかし実体的には行政だけでも住民や経済団体だけでも成し得ないから、時代の要請のように私たちが動いているのでしょうか。平成27年・2015年は置賜自給圏推進機構がいよいよ動き出します。そして事業も同時に行っていきたいと張り切っています。乞うご期待です。皆様方の部門毎の事業へのご参加をよろしく願いいたします。

「置賜自給圏通信」編集発行人：専務理事 井上 肇

発行日：2015年(平成27年)1月1日(木)

一般社団法人 置賜自給圏推進機構

〒992-0031 山形県米沢市大町四丁目5番48号 マツヤ書店ビル 3F

TEL:0238-33-9355 FAX:0238-33-9354

<http://www.okitama-jikyukuen.com/>